



MIURA
AYAKO
LITERATURE
MUSEUM



三浦綾子記念文学館 開館 25 周年

想いよ、届け

いつかわたしは、父母のふるさと苦前の浜べにたたずんだ。砂浜に寄せる波がやさしかった。そして思った。この海の彼方の国々の渚を。ときに大波が寄せても、やさしい波に洗われる渚を、わたしは臆に描いた。

神よ、平和を……われら地上のすべてに、平和を与えてください。

「ひかりと愛といのち」―聖書と私―「海に向こうに寄せる波思ふ」より

2023 年度 企画展

綾子と海

Seaside story written
by MIURA AYAKO

2023

4/1
Sat

2024

3/20
Wed

- 開館時間 9:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)
- 休館日 11/1-5/31: 月曜休館 (月曜祝日は、翌日休館)
12/28-1/5: 年末年始休館
- 入館料金 [大人] 700 円、[学生] 300 円
[団体割引] 10 名様以上は 100 円引

※小中高生は無料 ※賛助会員・旭川大学・旭川大学短期大学部学生は無料
※障がい者手帳をご提示いただいたご本人様は無料

〒070-8007 北海道旭川市神楽 7 条 8 丁目 2-15
TEL: 0166-69-2626 FAX: 0166-69-2611
mail: toiawase@hyouten.com



主催:  三浦綾子記念文学館

後援: 旭川市、旭川市教育委員会、苫前町、NHK 旭川放送局、北海道新聞旭川支社、朝日新聞旭川支局、(株)ライナーネットワーク、あさひかわ新聞、旭川ケーブルテレビ「ポテト」、読売新聞旭川支局、毎日新聞北海道支社、(一社)共同通信社旭川支局、日本経済新聞社旭川支局、三浦綾子読書会



写真・相沢明

……汽車はようやく留萌るもいの駅を発たった。と、窓の外を飽かず眺めていた私の目に、突如、夏の日に輝く海が見えた。その瞬間の私の驚きの何と大きかったことか。私は思わず立ち上がって、大声で叫んだ。「海だっ！ あれ！ あそこに海が見える！」

「草のうた」[十七]より

三浦綾子は、海のない旭川で生まれ、日本海・太平洋・オホーツク海という三つの海に囲まれた北海道にあって、旭川はほぼ中央の内陸部です。綾子は小学四年の夏まで海を見たことがなく、初めて海を見た時の衝撃と喜びを自伝小説『草のうた』に克明に記したほどでした。そんな綾子が、作品にたびたび海を登場させているのはなぜなのでしょう。

今回の企画展では、「憧れと転機」あこが「生と死の間」ま「水平線の向こう」という三つの柱を立て、綾子が海を描いた理由を探ってみました。海が描かれた作品とその場面を通して、綾子が見た景色、吸った空気、感じた手触りを味わっていただこうと思います。

また、今回の展示は当文学館ボランティアの「三浦文学案内人」の皆さんが協力して企画編集してくださったものです。ぜひ、彼らの意気込みと情熱を感じながらお楽しみください。



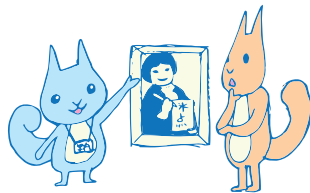
1981年 / 朝日新聞社



「草のうた」
創作ノート
(三浦綾子記念文学館蔵)

当文学館のボランティアメンバーです。三浦綾子文学の魅力を広く伝えようと、館内および外国樹種見本林で案内活動をしています。三浦綾子文学をこよなく愛する彼らは、大ボリュームの講座を履修して館長から委嘱された精鋭であり、ずっと学び続ける勉強家でもあります。その成果が、今回の展示にぎゅっと盛り込まれています。

三浦文学案内人とは？



■交通案内 (旭川駅から)

- 徒歩：JRから約20分。 ●タクシー：JR旭川駅東口から約3分。
- バス：所要時間約15分 バス停から徒歩5分※旭川電気軌道80・81番 / 道北バス43番・443番・45番・39番・40番 神楽4条8丁目 (神楽農協前が三浦綾子記念文学館最寄りのバス停であるとアナウンスされます。) ※変更される可能性もあります。最新のバス情報は各バス会社のホームページなどでご確認ください。
- 駐車場：見本林駐車場(無料)をご利用いただけます。



三浦綾子記念文学館

〒070-8007 北海道旭川市神楽7条8丁目2-15
TEL: 0166-69-2626 FAX: 0166-69-2611
mail: toiawase@hyouten.com